



道元禅師所用袈裟環／直径 8.4 cm

道元禅師所用と伝わる袈裟の環である。環を入れた袋は麻製で、袋の底部には「御開山袈裟環袋、第廿九世永明代」とある。永明とは、永平寺三十世光紹智堂（1610～70）のことであり、永明は勅賜号「慧輪永明禅師」をさす。なお、光紹の時代には、この道元禅師所用と伝えられる袈裟環の袋のほか、硯箱・頭陀袋の箱・団扇骨の箱・扨子の箱・数珠の箱が永平寺常住に施入されている。なお、この袈裟環は、道元禅師所用と伝えられると絡子切ともに同じ木箱に収納されている。この箱の蓋表面には「開山大禅仏絡子」とあり、箱内底には「永平什物之函、為父母捧之、月洲会下海音」とあることから、この箱は永平寺三十一世月洲尊海（げっしゅうそんかい 1609～84）の門下であった海音がこの箱を寄進したことがわかる。海音は、この他、道元禅師所用とされる尼師壇と扨子の木箱も施入している。